町長からのメッセージ 117

企業誘致の成功

中山三星建材㈱工場跡地の売却

7月24日の静岡新聞には「吉田町の中山三星跡地　総菜メーカーへ売却　津波浸水区域震災後初の立地　防災対策評価」、そして中日新聞には「吉田町　運動公園名目で購入の漁港隣接地　食品会社に売却へ　清水区のヤマザキ　予定価格7億1900万円」とそれぞれ大きな見出しの記事が気持ちよく踊っていました。企業誘致に成功し、明るい話題を町民の皆さんに提供できたことを嬉しく思いますとともに、皆さんとこの喜びを分かち合いたいと思います。

㈱ヤマザキから提出された企画書に記された土地利用計画は左ページの通りです。夢を描きながらご覧ください。

この工場跡地への企業の誘致は、平成23年3月11日に東日本大震災発災の少し前に、ほぼ決まりかけていた食品製造工場への売却が津波とともに消え失せ、その後は、太陽光発電の企画などが持ち込まれただけでした。私は『津波防災まちづくり』の1丁目1番地と位置付けた防潮堤のかさ上げなどが完成するまでは企業進出の話はないだろうと思い、何はともあれ、企業誘致の前提である津波防災まちづくりを喫緊の課題と位置付け、スピード感を持って進めてきました。

このスピード感をもった『津波防災まちづくり』の進展と、食品メーカーの業績拡大に伴う工場建設の企画がタイミング良くマッチし、この明るい話題に結びついたものと受け止めています。この工場跡地に製造工場の建設を決心していただいた食品製造販売の㈱ヤマザキの山崎寛治社長の御英断に深く敬意を表しますとともに、この進出が引き金となって他の企業の進出が続くようこれまで以上に全精力を傾けて『津波防災まちづくり』に取り組んでまいります。

豊かで勢いのある町へ反転攻勢

私は、今年3月議会定例会で私の目指す吉田町を「豊かで勢いのある町」と表現しました。「豊か」とは、この町の企業が安心して生産活動を営み、多くの雇用の場が確保されていることであり、「勢い」とは、人口が増加し続けることであると考えています。工場跡地に進出する㈱ヤマザキの製造工場は、全体の従業員規模で338人～388人、地元採用を含めた新規採用予定者で214人～264人を見込んでおり、多くの雇用の場が新たに創り出されます。豊かさの裏付けである雇用の場が確保されることになり、町外からも雇用の場を求めて人々が本町に転入されることも十分に予想されます。3・11の大震災以降、本町も少し人口が減少しています。㈱ヤマザキの進出が、本町の人口増加への反転攻勢の足がかりになることを期待しています。

㈱ヤマザキの土地利用計画

名　称	用　途	建築物の規模	操業時期	従業員規模	採用予定者数（地元採用含む）
第１期工場	カットフルーツ工場 惣菜パックセンター ゴボウ惣菜工場	約5,000～6,000㎡	平成28年10月	150～200人	100～150人
第２期工場	グラタンなど 牛乳惣菜工場	約3,300㎡	平成29年10月	100人	70人
総合開発センター	製品開発、製造開発 原料開発など	約800㎡	未定	70人	30人
堆肥工場	循環型社会を目指し、製造から生じる残渣を堆肥化	約4,000㎡ 既存の第２工場を修理、改良して活用	平成26年11月 （できるだけ早急に）	５人	５人
冷蔵倉庫	原材料の保管	約1,800㎡を２棟	未定	５人	３人
農産物流通センター 農業生産法人本部など	地元の皆さんとともに農業生産に取り組むため農業生産法人を設立し、生産管理を行う。また、原材料開発のベースとする。	約2,000㎡のエリア	平成26年10月 （できるだけ早急に）	５人	５人
水処理施設	生活排水を除く水処理	約1,800㎡のエリア	平成28年10月 （一部稼働予定）	３人	１人
津波避難エリア	津波避難所	約1,600㎡のエリア	未定	不要	不要